

つるし飾りミニ図鑑

さまざまな願いが込められているつるし飾り。その一部を紹介します。



姫だるま

だるまは、七転び八起きで福を招く縁起物とされ、また赤色は魔除けの色といわれています。

幼子の顔をした姫だるまは、愛くるしいわが子の面影を、その姿に重ね合わせています。

七宝まり

昔から、女の子の遊び道具の代表とされるまり。

そのまりを彩る、日本の伝統模様の七宝模様は、円満、財産、子孫繁栄などを表しています。



梅の花

花の飾りには、花のように可憐で美しく、愛らしく育つようにという願いが込められています。

また、梅の花には、清純や強さといった意味もあります。



参考図書：成美堂出版編集部 編「季節を彩る 美しいつるし飾り・さがりもの」、下田美知子・森幸枝・酒田商工会議所女性会 監修「作って楽しむ つるし雛」



「特集」栗原の手仕事

くりこまのつるし飾り

色とりどりの布で作られた、子ども手のひらほどの小さな飾りをぶら下げる、つるし飾り。
ここ栗原には、災害からの復興と、癒やしの願いが込められた、つるし飾りがあります。
今月は、栗駒地区の女性たちの手で作られる「くりこまのつるし飾り」を紹介します。

江戸時代から伝わる文化

ひな祭りでは、ひな人形を飾ってお祝いをするのが一般的ですが、糸に飾りをつるすつるし飾りも全国各地に伝えられています。

始まりは江戸時代といわれ、飾りに使われるちりめん細工は、女中や裕福な家庭の女性が着古した着物を使って、香袋や琴爪入れ、子どものおもちゃなどを作ったのが起源とされています。時代が流れ、それらをつるして楽しむようになり、やがて、庶民にもその文化が広まって、ひな祭りで飾られるようになったといわれています。

三大つるし飾り

つるし飾りは、日本のどこで発祥したのか定かではありませんが、各地で伝承されてきました。中でも、静岡県の「雛のつるし飾り」、福岡県の「大げもん」、山形県の「笠立福」が有名で、三大つるし飾りと呼ばれています。

下げる数が決まっていたり、近隣住民で持ち寄って作ったりとさまざまですが、どの飾りにも、子どもの健やかな成長を願う気持ちが、込められています。

伝承を大切にしながら

つるし飾りには、込められている願いの他、一つ一つの飾りに延命長寿や無病息災などの意味がありますが、必ずこの飾りでなければいけないという決まりはありません。伝えられてきた形を大切にしながら、思い思いの願いを込めて楽しむことができるのも、つるし飾りの魅力の一つです。